

## 平成30年度第2回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成31年2月22日（金）午後1時30分～午後3時30分  
場 所： 草津市役所8階大会議室  
出席委員： 三浦委員長、小沢委員、梅木委員、河前委員、則武委員、橋口委員  
北村委員、喜田委員、小枝委員、小泉委員、廣田委員、中野委員、  
黒川委員、吉川委員、北島委員、荒木委員代理松浦氏  
欠席委員： 藤田副委員長、塚口委員、河副委員、関川委員  
事務局： 橋川市長、健康福祉部西部長、健康福祉部溝口理事、健康福祉部小川副部長、  
商工観光労政課有村課長、長寿いきがい課松永課長、  
健康福祉政策課川那邊課長、健康福祉政策課田村係長、  
健康福祉政策課井上主任  
傍聴者： 2名

### 1. 開会

---

#### 【市長】

みなさんこんにちは。大変お忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。平成29年3月に草津市健幸都市基本計画を策定してから、これまでの健康づくりの枠組みを超えて、市全体で総合政策として、健幸都市づくりに本格的に取り組んでいるところです。今年度の取組の成果としては、事業所の健幸づくりの面では、本市の健幸都市宣言賛同事業所の数が、現在178箇所となり、健幸づくりの輪の広がりを感じています。個人の健幸づくりの面では、ポイントを貯めて楽しく健幸づくりに取り組むことができるBIWA-TEKUアプリについて、県内の草津市を含めた11市町で運営しており、全体の登録者数が13,000人、草津市での登録者数は1,400人を突破しました。昨年11月に開催した健幸ウオーク、健幸フェアは参加者が約1,400人で、本市の健幸都市づくりの取組の広がりや盛り上がりを感じています。さて、先日、平成31年度当初予算を発表しましたが、来年度においても誰もが生きがいを持ち、健やかで幸せに暮らし続けられる健幸都市の実現に向け、行政・市民・大学・企業・団体等、あらゆる主体が健幸を我が事として意識して、各主体の連携を深め、様々な施策を丸ごとで進める。我が事丸ごとというのはこのごろの新しいキーワードで、厚生労働省が地域共生社会を実現するやり方として、我が事として意識し、丸ごとで進めていくと言っておられますが、まさにこの健幸都市づくりも我が事丸ごとで進めていけるようにより一層取り組みを強化したいと考えております。この後事務局より主な31年度の取り組みについて説明いたします。新しいものとしては、健幸ステーションの設置やフレイル予防、認知症対策の条例の制定などを進めたいと考えております。それぞれの立場からご意見・アドバイスをいただきますようお願いいたします。今後とも引き続き草

津市民全員が健幸で長生きする、また子どもの体力づくりについて、おかげさまで小学5年生、中学2年生の体力測定で全国平均を上回る結果が出るまでになりました。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

**【事務局】**

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

## 2 議事

---

### 1) 平成31年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組について

**【事務局】**

≪資料1に基づき説明≫

**【主な質疑・意見】**

**【委員】**

来年度の事業で駅前の市街化区域のイメージが非常に強く、市街化調整区域である常盤や山田などの地域のイメージがあまりない。記述の上でもう少しわかりやすくしてほしい。

そして、地域共生社会ということで、新しく地域における担い手づくりをされるということだが、今までもまちづくり協働課やコミュニティ事業団など別の所でも似たようなことをやってきたと思う。それとの違いがどのようにあるのか。社協がやるというだけでは恐らく違いは生まれないと思う。地域の方が余計な仕事の一つ増えたと嘆くだけになりかねないのでそのあたりを明確に教えていただきたい。

**【事務局】**

地域共生社会の観点について、これまでもコミュニティ側のいろいろな団体で担い手づくりの講座が開かれていた。今、地域福祉側も社会福祉協議会の事業として、例えば福祉教養大学などにおいて担い手づくりをされている。最近地域福祉に関しては従来の公的な福祉ではなく、まさに健幸都市の人々の幸せなどが福祉の大きい概念になっているので、まちづくり・コミュニティ側と地域福祉側の担い手づくりの境界線がなくなってきている。今後、その両方を含めて、これからの議論ではあると思うが、それぞれを別物とするのではなく、似たようなものの延長線上として地域共生社会の議論を進めていきたいと思っている。草津市は地域で活動されている様々な団体等もあるので、それらを市民の皆さんに知っていただくための取組を含め、来年度については、例えば地域共生社会がどういうものなのかを市民の皆様を知っていただくためのセミナーや、福祉施設に行くなどの体験型のもの等、福

祉教養大学を少し拡充させるかたちで市としても推進していきたい。

また、資料については来年度の主な取組や拡充させる部分をピックアップしたため、市街化区域が中心になっているが、従前から健幸都市基本計画の大きな柱として、コンパクトシティプラスネットワークに基づいたまちづくりというところで、街中の拠点もありながら、草津市版地域再生計画で草津市全体のまちづくりを進めていくというところがあるので、この資料は市街化によりがちに見えるところがあるが、計画全体としては市街化調整区域のまちづくりも十分勘案して進めていきたいと考えている。

予算案の中には、「地域再生推進事業費」として入っている。コンパクトシティプラスネットワークの中で、市街化調整区域についても来年度については生活拠点の形成、交通環境の充実、地域資源を活かした産業の支援、地域ごとの課題を整理して解決するために地域ごとでワークショップや協議会を通して地域別のプランを作成していこうと考えている。

#### 【委員】

まちの健幸づくりの中の楽しく歩ける路面標示の設置について、平成31年度は企画やテーマ、デザインを選んでいこうというのが主体で、実施は平成32年度以降ということか。

#### 【事務局】

平成31年度はデザイン案、計画案の作成を考えており、平成32年度にデザイン案に基づいて路面標示をしていきたいと考えている。

#### 【委員】

予算がどれだけとれるかわからないが、草津川跡地公園をはじめ南草津周辺、湖周のあたりはウォーキング、サイクリング含めて非常に良い場所であると思う。ジョギングする方、サイクリングする方の区分けも含めてしっかりやっただけであれば非常に良いと思う。

もう一点、これから建設になるが、市民総合交流センターで健幸都市くさつの推進について、特別なエリアを設ける計画があるのか。1階にオープンエリアがあると聞いており、天候に関係なく健康増進に図れると思うので、是非企画いただきたい。

#### 【事務局】

交流センターについては、商工会議所や市の社会福祉協議会、コミュニティ事業団、人権センター、少年センターなどが入る予定である。その中で会議室や子育て広場も整備される。それが基本的なコンセプトになるが、様々な団体が入った単なる雑居ビルではなく、交流センターという名前のように様々な人の交流の場となるものである。「健幸」に繋げるために、人との繋がりの確保が重要であると思っている。交流をいかに進めるのかというところはハードの問題ではなく、どのように人を交流させるかという管理運営の部分が重要であり、今後、議論が必要と考えている。現在、健幸に特化した具体的な取組があるわけではないが、

交流センターについて、健幸都市づくりの観点から考えていきたい。

**【委員長】**

「(仮称) 健幸ステーションの整備」は、具体的にどのようなイメージなのか。

**【事務局】**

来年度は、まずモデル的に3か所設置をする予定。市役所の1階のサロンは、健康増進法の関係で喫煙スペースが撤去される予定だが、健康測定と情報発信機能を中心に整備を進めていきたい。置いてあるだけではなく、何らかの市民の交流機能がもたせられないか議論を進めていきたい。現在主に高齢者が利用されているロクハ荘、なごみの郷については実際にイベント等様々な活動をされており、それぞれに合った健幸ステーションを行政だけが決めるのではなく、指定管理者や利用者の状況を見ながら整備を進めていきたい。

**【委員長】**

市役所の喫煙スペースは今後撤去される予定であり、県内でも遅れているので、屋内には作らずスペースを活用していただきたい。

**【委員】**

4ページのまちの③の健幸ステーションと、ひとの②の介護予防拠点というのは資料では別の項目に記載されているが、内容が重複しているのではないかと。

**【事務局】**

介護予防拠点としては、現在なごみの郷とロクハ荘で様々な認知症予防や介護予防の講座等を開催している。その中に健幸ステーションを置くことで、より高齢者に向けた健幸に特化したものにしたいと考えている。

**【委員】**

貴重な資源であると思うので、一体的に線引きは難しいと思うがうまく活用し合いながら進めていただければと思う。進めていく上で、専門職を活用する動きになっているように思うが、専門職もそれぞれ所属があるので、様々な事業所が互いに協力しながら、可能な範囲で専門職を出していく、ということができれば理想的だと思う。介護事業所の中では地域共生社会の話も出てきているので、少しでもあれば専門職を出せる。しかし、組織の協力がないと出られない現状もあるので、市の方でもうまく活用いただきたい。

**【委員長】**

フレイル予防の取組について、来年度予算をつけているが、従来とは違う取組になるのか。

**【事務局】**

新たなものを加えていきたいと思っている。先ほどもご提案があったようにフレイル予防については、事業所のご協力をいただき、地域サロンで専門職の方にフレイル予防の観点からお話をいただきながら展開していきたい。また、介護予防拠点のロクハ、なごみについては既に実施している講座だけでなく、新たなフレイル予防を入れていきたい。個別で健康講座・健康教室を開催するだけではそこで止まってしまうので、それをきっかけに介護予防の常時開催の講座に引き続き参加いただくなど繋いでいくことを重点に展開していきたい。

**【委員長】**

認知症の施策に関する条例というのは、具体的にはどのようなものを想定しているのか。

**【事務局】**

地域共生社会も関係してくると思うが、認知症の高齢者が増加することを見据え、認知症予防の観点を含め、住み慣れたまちで長く暮らしていくために、地域を巻き込み、まちをあげて認知症があっても安心して住めるまちが実現できるような条例の制定を考えている。平成31年度に会議で議論いただき、平成32年度に策定したいと考えている。

新聞等でも報道されているが、愛知県や神戸市では最近改正をされ、認知症の方が事故を起こされた際の保険の推進など、全国で条例の策定や施策の展開をされている。

**【委員】**

認知症に対して関心があるが、対策が多いので、「認知症があっても安心したまちづくり」ではなく認知症にならないように予防に力を入れたらどうかと思う。

**【委員】**

会議で「健幸」と言っているが、何をもちて健幸なのかがわからない。高齢者にとって健幸とは何なんだろうと思う。尊敬の気持ちを持ってもらうことや、必要とされることで高齢者は頑張れる。先日高齢者を150人連れてバス旅行に行ってきたが、一番高齢の方は90歳で、とてもしっかりされていた。そういった方はおそらく幸せな話し相手がいたり幸せな家庭があったり、学ぶべき近所の仲間がいたりするのだと思う。それが「健幸」なのではないか。体重計などの健康器具を置くのではなく、心から話し合える人がいたりすることが「健幸」だと思っている。この会議についても、最初に資料を読んで話すとなると、かしまってしまい意見が言いにくい。介護の冊子なども文字で埋め尽くされているので、高齢者は読めない。高齢者が元気で生きられるまちが健幸のまちであると思う。高齢者になっても意見を言いやすいようにすべきである。

### 【事務局】

会議運営上での問題もあるが、自由闊達な意見をと言いながら、堅い会議の場になっているところもある。今、高齢者にとって幸せとは何だろうという話があったが、高齢者だけでなく人々がどのように自分らしく生きがいを持って過ごすかというところを行政が考えていく必要があるのではないかと思う。ステーションなど新しいものだけを作っていくのではなく、既存の施設の利用や、地域の人との既存の繋がりなども踏まえながら暮らしの問題を考えていく必要があると思う。このような意見をフィードバックして次に繋げるように今後も取り組んでいきたい。

### 【委員】

健康推進員の立場で話をするが、現在滋賀県は平均寿命が上位ということで、様々なメディアから取材がある。その中で聞いた話では、平均寿命が高いのに野菜の摂取量が少なく、全国でも下位である。普段から野菜を350グラム食べましょうという活動をしていて、以前は100グラム足りないと言われていたのが現在は80グラム足りない状況である。20グラムでも活動のおかげで良くなった。

もう一点良いと思ったことは、各学区のデータを出していただけるということだが、学区によって何が弱いかわかり改善へ向けた活動ができると思う。今後の活動に大いに利用し、健康寿命の延伸を目指していきたい。ロクハ荘やなごみの郷は、高齢者の施設と言われていたが、実際は子どものサロンも多く、若いお母さんなども多い。全世代が使える施設になればいいと思う。

路面標示については、ウォーキングでビワイチをしたが、市町によっては地面にわかりやすい表示がされていたが草津には見当たらなかった。琵琶湖の横を通ると車の排気ガスが多いので、何とかならないかと思った。自転車に乗る方やウォーキングの方が今とても多いので、草津にもいいところがあることをアピール出来るような表示にしてもらえたらと思う。

### 【委員長】

野菜摂取に関しては子どもも大人でもあるが、計画にも入っているのでそのあたりの説明をいただきたい。

### 【事務局】

健康都市基本計画の他に草津市には健康くさつ21、健康推進計画がある。また、その中に食育推進計画がある。この中で野菜の摂取量について、指標、重点目標としてバランスのとれた食事を意識し、実践するというところで野菜の摂取量1日350グラムを目指すという目標を立て、健康推進員を中心に各地で様々な取り組みをしていただいている。

### 【委員】

ひとの健幸の課題に、食事の大切さや野菜の摂取の啓発に取り組むとあるが、生まれてから死ぬまで必ずすることは食であり、野菜の摂取量が少ないことを踏まえて取り組んでいこうという話であった。フェアやマルシェをされているが、啓発だけで実際に食べることまではつながっていないように感じる。草津は他の市町と比べても野菜は豊富にある。どうせ食べるなら地域のを消化する取組を進めてみてはどうか。そういったことが進んでいけばまち、ひと、しごとが丸ごと健幸になることにつながるのではないかと思う。

### 【事務局】

草津市食育推進計画に基づく、野菜摂取の推進については今年度初めての取組として、飲食店に協力を依頼し、市内16の飲食店で10～12月まで野菜をたくさん食べましょうと案内したり、3010+運動を推進する「食育チャレンジ」の取組をさせていただいた。先日、食育の懇話会でこの取組の評価をした際に、参加飲食店を増やすために、市とそれぞれの飲食店が推進したいことについてディスカッションをした上で進めればいいのではないかという意見をいただいた。市としてはそういった取組も含め、市全域で野菜を食べましょうという実践の取組を進めていこうと思っている。はじめばかりでそこまで普及していない現状であるので、いただいた意見をもとに来年度については参加飲食店を増やしなから、市民が野菜を今まで以上に食べていただけるような環境づくりを進めていきたい。

### 【委員長】

地元の野菜を買ってもらうような取組は産業にも繋がる。小売りでの売り方で草津の野菜を買いやすいような取組を市として盛り上げていってもらえると良い。購買行動に影響するような対策をされると良いと思う。

### 【委員代理】

地域の繋がりの中で、一人ではなかなか出来ないけれども仲間がいれば進むということはすごく大きいと思う。働き盛り世代への対策が県域でも全体的な課題となっていて、職場の力がすごく大きいと感じている。事業所について、健幸都市宣言賛同事業所が178箇所あるというのは素晴らしいことであると思う。その中で健康経営を進めるという取り組みがあるが、具体的に伺えることがあれば教えていただきたい。

### 【事務局】

健康経営について、今年度は啓発の時期であり、シンポジウムや講座を開き、健康経営がどういったものなのかを周知啓発させていただいた。来年度は健康経営の優良法人制度が設けられているので、どのようにしたら銘柄を取ることが出来るのかというところに焦点を当てて、中小企業を中心に進めていこうと思っている。

**【委員】**

スポーツは心技体である。食事をとることは体力の維持であり、運動は機能の維持である。しかし心の健幸が一つも載っていない。それについてはどうか。

**【事務局】**

ヘルスツーリズムを商工観光労政課でしている。平成29年度は運動中心だったが、今年度は心の健幸ということで幅を広げて行っている。俳句ツアーや写真ツアー、陶芸体験など、日本旅行の方と一緒に旅行などもさせていただいた。出席者も非常に多く、効果があったと思っている。明後日も心と食の健幸ツアーを行う予定である。心の面で楽しむことを計画している。

**【委員】**

自分自身電車をよく使うので、駅から出たときに気になるのが、案内表示が少ないように感じる。草津川跡地公園もできたので、県外の人にもわかるような表示があればよいと思う。デジタルサイネージももっと使ってもらえるようなアピール、工夫ができればよいと思う。イベントや野菜摂取などの様々な取組をこの会議で初めて知ったので、市民の方にはあまり届いていないのではないかと。積極的な情報発信をしていただければと思う。

**【委員長】**

まちづくりについては計画の目玉でもあるので進捗をお伺いしたい。

**【事務局】**

この計画では住む人も訪れる人も健幸になれるまちということを掲げているが、情報を知らなければ健幸になれないという側面もある。来年度は、広報啓発に重点を置いており、今まで培った都市基盤を健幸のために十分に活用できるよう、路面標示をどのようにするのか、案内文やサイネージなども含め、行政が考えるだけでなくUDCBKの取組なども活用し、市民の方のご意見を踏まえながら考えていこうと思っている。まちづくりの成果をいかに健幸づくりに活かしていくかというところを来年度は重点的に進めていきたいと考えている。

**【委員長】**

啓発については8ページに書かれているが、予算が少ない。広報啓発については若い世代に対してはネットなどを活用できるが、予算は足りるのか。

**【事務局】**

予算額は確かに少ないが、できるところからということもあるので、まずは既存のサイネ

ージなどを利用しながら効果を検証していく。来年度は既存のものを活かしながら一旦このような枠組みで考えていきたいと考えている。

**【委員】**

先ほど市長から健幸ポイント制度が1,400人とあったが、これでは少なすぎると思う。新潟県見附市の例を挙げると、広報紙やチラシ、ポスター程度では200人の募集のところ30人の実績であったが、広報啓発を工夫したところ1,000人の募集に対し1,040人の応募実績があった。今後いろいろなことについて広報啓発をもっと頑張ってもらいたい。見附市がやっていた内容もある程度利用できると思う。健幸ポイントについても知らない市民が多いと思う。来年度以降広報啓発を今以上に増やして欲しい。

**【委員長】**

1,400人であれば1パーセントである。10パーセントぐらいはいきたいと思う。

**【委員】**

一市民として活躍できる場を設けていただければ参画しやすい。アプリを広めたり、野菜の啓発、健幸ステーションのコンシェルジュなど、思いを持った人が必要なシーンがいろいろあると思うが、役割をいただくと活躍できる人がたくさんいるのではないかと。子育て世代の方でも何かやりたいと思っている人は多い。職員の方がやるのは大変だと思うので、得意な人がやればと思う。対価が必要な場合はBIWA-TEKUポイントで還元するなど工夫があれば。市民が参画できるような機会を作っていただき、一覧にまとめたり、登録制度でイベント等の案内を出すなど市民の力を使っていくとよいと思う。

**【事務局】**

役目を持つというのは今後非常に重要になってくるのではないかと考えている。行政としては制度を立ち上げるだけではなく、地域の中で活躍できる方と一緒にやっていけるような仕組みづくりの議論を進めていきたいと考えている。それが健幸都市づくりに繋がっていくと思う。いろいろな方と意見交換していければと思っている。

**【委員長】**

枠組みづくりは行政の重要な役割であると思うが、健康推進員の方は昔からやってこられている。時代に合わせて形は変えていかなければならないと思うし、ネットを使ったりということになると若い世代に入ってもらえればと思う。

**【委員】**

最近副業や働き方改革が言われている中で、女性は敏感に参画される方が多いが、男性は

少ないので、そういう方もどんどん参画できるような何かが作れたら、高齢者になって退職した際に地域に入り込みやすいと思うので、長い目を持って仕組みを作っていただけたら、未来の草津は心も体も健幸でいられるのではないかと思います。

**【委員】**

運動環境について、いろいろなイベントをされても長続きしない。運動習慣をつけるためにはどうすればよいかというところで、健幸リーダー、健幸サポーターを作ってはどうかと思う。習慣づけるためにはリーダーが必要であると思うので検討いただければと思う。

**【委員】**

リーダーがいて機能していない場合もあるので、会を作ってもリーダーを作らなくてもいいのではないかな。

**【委員】**

ここに寄せてもらってわずか数回だが、いろいろな意見を聞いていて思うのは、それぞれの団体の代表者を集めて何を求めているのか。意見をもとに作ったものがどうであるかというなら話はしやすい。4人の公募委員の方は何かをよくしたいと思って来られているとすれば、できたものを聞くより、年度の初めに意見を聞く必要がある。委員会なのでよいが、この会議でも承認いただいたと言うならもっと意見を聞かなければならないのではないかな。風通し良くしゃべって次に活かすかたちにしてほしい。せっかく選ばれているのだから意見交換していかなければ次年度同じことの繰り返しになると思う。

**【事務局】**

前回いただいたご意見はなるべく参考にさせていただいて、例えば広報啓発が必要なことは前回強く意見をいただいたので、こちらも受け止め、来年度予算に反映させていただいたが、わかりにくい部分でもあると思うので、本日いただいたご意見をフォローできるような会議運営を行いたい。来年度も開催していくと思うのでよろしくお願い申し上げます。

**【委員】**

学校に勤務している立場と社会教育に関わってきた観点から話すと、市長の話の中に草津市の子どもの体力の話があったが、今の子どもは100年時代と言われており、小学校を卒業してから90年近く生きるにあたって、小学校6年間の中では生涯スポーツなどの生涯の心と体の健康について考えることが大切だと思っている。草津市には様々な財産があり、大学などと連携しながら進めていることなど草津市の強みを今後もっと活かしていく必要があると思う。学校も最近は食育や睡育など家庭教育に踏み込まなければならない時代になったと感じている。ケガ、事故の防止や命に関する授業では助産師や歯科衛生士など

に来ていただきながら進めている。行政の中でも部局横断が必要かと思う。最近見たテレビでAIにビッグデータを分析させたら何が健康寿命に影響するかを調べていて、運動や食事ではなく、読書という項目があがってきて驚いた。図書館などと繋がりながらやっていくことも健幸都市にとって必要なのではないか感じた。横の連携や市民との協働の中で、意見を出しながら進めていくといいのではないか。

**【委員】**

私自身40歳を超え、体重の増加や運動不足を感じるが、子どもに合わせてテニスをすることがあり、きっかけづくりが大切だと思った。人が集まれる場所を作るなど、計画に沿って進めていけるといい結果につながると思う。

**【委員】**

事前に送付された資料に目を通したものの、今日は結果報告を受けるのか、もう決まっている来年度事業に対して意見を言えばいいのかわからなかった。事業計画をする前に集まって、意見を出し合って市民の声として市がまとめるのなら良いと思うが、決まってから形式上の話をしても意味がないのではないか。資料も文字が多くわかりにくい。「健やかで幸せに生きていく」健幸都市を目指しているからこそこういうかたちではいけないと思う。自分は長い間保育士をしていて、命を預かっている立場だからこそ感じる。来年度も委員会を継続するのであれば、このスタイルを変えていくというか、市民の声を拾うために、もっとラフに話し合う場が必要なのではないかと思う。

**【委員長】**

来年度事業と予算も決まった状態ではあるが、この場で将来に向けてご意見をいただくことは意味のあるものだと思います。この委員会の進め方について、私も考えていけないといけないが、今の意見に対して事務局から何かあるか。

**【事務局】**

できるだけ会議でいただいた意見に対してのフォローは行いたい。もともとは計画の策定から始まった委員会で、策定後、平成29年度から計画に基づいた事業の進捗管理を行っているが、その時に運営スタイルを見直してもよかったのかもしれない。いただいたご意見を踏まえながら進めていきたいが、ただ皆さん忙しい中で何度も集まってもらうのは負担だと思う。そしてほかの市民の皆さんの意見を取り入れることも重要だと考えているので、ご意見を参考にしながら来年度以降の委員会の運営について考えていきたい。

**【委員長】**

計画策定の時から入っていただいていた委員の方も多し。計画策定時に議論いただき、計

画を策定していたので、計画がちゃんと進んでいるかをみるのもこの委員会の大切な役割。今日はその一部を話し合っていたいただいたかたちだが、厳しい目でチェックしていただき、この場で意見をいただくということかなと思う。忌憚のないご意見をいただいたので、市の方で今後に向けてご検討いただければと思う。「草津市は市民が健康で幸せになれる」と、全国で名が知られるぐらいになるよう進んでいくよう、この委員会としても引き続き皆さんにご意見をお願いしたい。

他御意見等ないようなので、本日の議題は以上である。議事録の中身については事務局でとりまとめをしたうえで、私の方で中身の確認をする。ご一任いただいでよろしいか。

### 3. 閉会

---

#### 【事務局】

本日はお忙しい中ご出席いただき、また活発にご議論いただきありがとうございます。本日は来年度の健幸都市づくりの取組についてご議論いただきましたが、様々な積極的なご意見アドバイスをいただけたと思います。それらをしっかりと踏まえながら、来年度以降も健幸都市づくりをさらに盛り上げていけるよう取組を進めていきたいと考えているので引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、今年度をもって一旦任期満了となります。皆様には草津市健幸都市基本計画の策定からその後の毎年の取組の進捗管理まで、長期間にわたりご協力をいただきました。今日まで健幸都市づくりを推進していくことができたのも、ひとえに皆様のおかげだと感じています。厚く御礼申し上げます。健幸都市づくりはまだまだ発展途上です。草津市を健やかで幸せに暮らし続けるまちなにしていくためには、より一層の推進を図っていかねばなりません。今後とも折に触れでご指導・ご鞭撻をいただくよう何卒よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。